

短 報

愛媛県西条市で保護されたコアホウドリ *Diomedea immutabilis* の記録

森松清美¹・山本貴仁²・前田洋一¹

Record of Laysan Albatross *Diomedea immutabilis* from Saijyo City Ehime Prefecture
Kiyomi Morimatsu, Takahito Yamamoto, Yoichi Maeda

The First record of Laysan Albatross in Saijyo city Ehime prefecture. A weakened Laysan Albatross was rescued on 10 Dec 2004. The author fed it with raw horse mackerel, inspected blood examinations.

After 10days, We released on the Pacific Ocean (33° 12' 8" N, 134° 8' 6") bearing a metal ring lettered Japan 12A-03465.

はじめに

コアホウドリ *Diomedea immutabilis* は、アホウドリ科に属し、そのほとんどがハワイ諸島の島々で繁殖している(百瀬, 2002)。日本においては、1929年に伊豆諸島の鳥島にて繁殖が確認されているがその後絶滅し、現在では小笠原諸島聳島列島にある聳島属島の鳥島でのみ繁殖が確認されている(大野, 1955; 倉田, 1978; 山階, 1931)。日本近海では夏季は北海道太平洋沖、冬季は本州および四国の太平洋沖、伊豆諸島、小笠原諸島近海でよく見られるとされている(桐原, 2000)。今回、瀬戸内海沿岸において本種一羽が保護された。本種の記録は日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥学会, 2000)に「四

国」と記述があるものの愛媛では初記録である。筆者らは2004年12月10日に愛媛県西条市において保護され、愛媛県立とべ動物園に収容されたコアホウドリを確認する機会を得たので報告する。

保護の状況および記録

本個体は、2004年12月9日西条市朔日市のクラレ機工株式会社(33°55'59"N, 133°10'47")の敷地内にて発見された(図1)。翌日、移動はしているものと同じ場所にいるため、西条地方局林業課を経由し愛媛県立とべ動物園に搬入された。本個体は、背と翼の上面は黒褐色で体の残りの部分はほとんど白く(図2)、特徴的な目の前の黒色と尾の先が黒いこと(図3)、翼開長が約2000mmと長く翼が細長く尖った形をしていること(高野, 2004; 岡, 1998)からコアホウドリであると判定した。性別については、雌雄同色であることから判別は出来ない。また、本種の幼鳥や若鳥は、嘴が灰色みを帯びているとされている(真木・大西, 2002)。本個体は嘴が灰色みを帯びることから若鳥の可能性があると考えられた(図4)。搬入された時点での状態は衰弱しているものの大きな外傷はなく、嘴の前にコアジをぶら下げると食いつく意思が見られたが採食には到らず強制給餌した。保護当時は段ボール箱にて飼育していたが、羽繕いをする回数が増えたため12月13日に300×300mmの保護施設(図5)に移動させた。12月15日、バット内の水に浮かせたコアジを自力採食するようになり、体重は保護時の1.8kgから2.2kgに増え、水に浮かせると浮かぶようになった。同時に健康診断として血液検査(表1)も行った。この結果、AST, LDH, UAの上昇が見られた。AST, LDHが上昇しCPKが正常値であることから肝疾

国土地理院承認 平14総復 第149号



図1 黒いポイントが保護場所と放鳥場所

1 愛媛県立とべ動物園

2 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究科



図2 背と翼の上面は黒褐色で体の残りの部分はほとんど白い



図3 特徴的な目の前の黒色と尾の先が黒い



図4 幼鳥や若鳥は、嘴が灰色みを帯びている



図5 3000×3000mmの保護施設

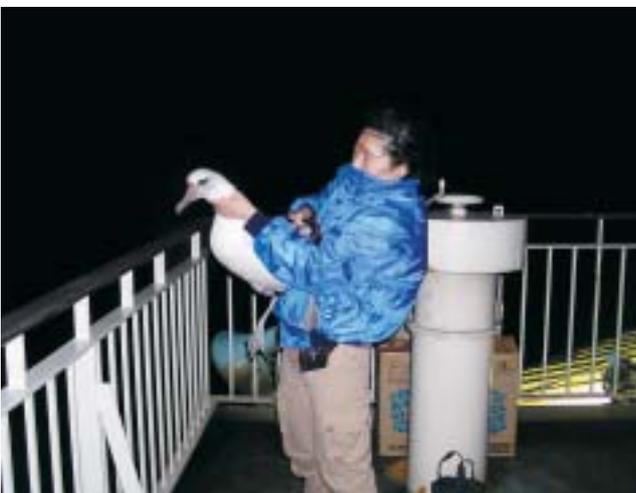


図6 高知県室戸沖 (33°12'8"N, 134°8'6") にて放鳥

表1 採血年月日2004年12月15日の血液化学検査結果

TP	3.8g/dl	Ca	10.0mg/dl	T-Bil	0.9mg/dl
Alb	<1.0g/dl	CPK	491IU/L	LDH	1239IU/L
BUN	<5mg/dl	Mg	1.2mg/dl	ALP	602IU/L
UA	>20.0mg/dl	AST	667IU/L	Na	149mmol/L
CRE	0.6mg/dl	ALT	112IU/L	K	3.2mmol/L
Amy	505IU/L	GGT	<10IU/L	Cl	128mmol/L
Glu	232mg/dl	T-Cho	288mg/dl	Ht	24%
IP	0.8mg/dl	TG	133mg/dl	直腸体温	39.5℃

患が疑われた(海老沢, 2003). UAは上昇しているがIPが上昇していないため腎機能は正常であると考えられた. TPは正常範囲内であるため飢餓状態からは脱していると診断した(B.H. コールズ, 2002)しかし, コアホウドリの血液データはないため, 一般的な鳥の血液検査データを参考にした. 放鳥は, 肝疾患が疑われるが翼の筋力の低下を恐れ, 体重の増加と自力採食の開始を目安に出来るだけ早い時期の放鳥を目指した. 12月18日, 愛媛総合科学博物館山本学芸員の協力を得て標識調査用足環(12A-03465)を装着し放鳥に備えた.

12月1~9日までの気象状況は穏やかであり平均気温は9.3~14.4℃, 平均風速は1.6~6.3m/sであった. この個体が迷行した原因は不明だが, 4, 5日の間に雨が降り風向西の最大風速11m/sとなっている. 衰弱した個体が太平洋側から流され飛翔力を失い落下したと考えられた.

発見から10日後, 大阪高知特急フェリーの協力を得て12月18日22時57分に高知県室戸沖(33°12'8"N, 134°8'6")にて放鳥を行った(図6). 場所は, 室戸岬灯台より217度4445m, 天候は曇, 風向東北東, 風力6~7m/s, 気温13℃, 高知沖の海水温24℃であった. 放鳥時には, 風にあおられ船に激突すること, 海に浮かんだ場合スクリューに巻き込まれる恐れを考え船後部の風下から放鳥した. コアホウドリは暗視適応の高いことが知られているが(Nagahisa, 1988), 放鳥後は着水し海に浮かんでいるのを確認した.

計測値(保護時)

体重1.8kg, 露出嘴峰長170mm, 自然翼長490mm, 翼開長1960mm, ふしょ長97mm, 尾長195mm(図2, 3).

謝辞

放鳥の方法については山階鳥類研究所, 放鳥時には大阪高知特急フェリー船長安岡良孝氏に大変お世話になった. 記してお礼を申し上げる.

文献

- B. H. コールズ (2002): バードクリニックプラクティス・鳥の治療と看護, インターズー, 東京. pp. 57-65.
- 海老沢和莊 (2003): NJK・Sep. 飼い鳥の臨床基礎検査編血液検査その7, ビージェイシー, 東京. pp. 12-13.
- 倉田洋二 (1978): 小笠原諸島におけるコアホウドリ繁殖の記録(速報), 10, pp. 185-188.
- 桐原政志 (2000): 日本の鳥550水辺の鳥, 文一総合出版, 東京. p. 30.
- 百瀬邦和 (2002): コアホウドリ, 改訂日本の絶滅の恐れのある野生動物. レッドデータブック2鳥類, 環境省自然環境局野生生物課編. 自然環境研究センター. 東京. pp. 84-85.
- 真木広造・大西敏一 (2002): 日本の野鳥590, 平凡社, 東京. p. 22.
- Nagahisa, K (1988): A Distributional Analysis of *Diomedea immutabilis* and *D. nigripes* in the North Pacific, 山階鳥研報, 20, pp. 1-20.
- 日本鳥学会 (2000): 日本鳥類目録改訂第6版. 学習研究社, 帯広市. p. 6.
- 大野義輝 (1955): 鳥島の鳥. 鳥, 14 (66), pp. 24-32.
- 岡奈理子 (1998): コアホウドリ, 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック. 水産庁編. 日本水産資源保護協会, 東京. pp. 390-391.
- 高野信二 (2004): フィールドガイド日本の野鳥増補版, 日本野鳥の会, 東京. p. 70.
- 山階芳麿 (1931): 鳥島紀行. 鳥, 7, pp. 5-10.

